
壊したい...

乃舞

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

壊したい…

【Nコード】

N 4 4 3 6 M

【作者名】

乃舞

【あらすじ】

僕と君の関係は恋人。

僕の彼女は君で、

君の彼氏は僕。

だけど、僕と君を繋ぐ糸は

細く脆く危ない。

君と僕との恋人としてのぎりぎり。

>愛してる。

すっごくすっごく愛してる。

耳元で呟く君の声。

心まで響き、脳内を駆け巡る。

ぐるぐる回りながら、

頭の中をいっぱいいっぱい掻き散らす。

どろどろに溶けてしまいそうになって、

君に肩を預けた。

君はそつと肩に手を回した。

きつく抱きよせる力が痛い。

思いが痛い。

気持ちが重い。

>ねえ、私にキスしてよ。

君が甘ったるく願うから、

僕は優しく口づけた。

君の唇は、

発せられた言葉と同じくらい甘ったるい。

君からする香りも

君の身につけている服も

君の揺れる瞳の輝きも。

すべて、すべて、

甘ったるい砂糖菓子のように口の中で溶ける。

>ねえ、もつと愛してよ。

君に言われて、僕は気づいた。

僕は君を愛していなかったのか。

愛しく可愛がつていなかったのか。

君の望みを叶え、

君の願うことをした。

それは「愛し」ではなかったのか。

自問自答の質問だけが、

また、僕の脳内にこだました。

>どうしたのよ。

不安げに君は僕を見つめた。

心配してるのか、

何かを頼む前兆なのか。

僕には、もうわからない。

君を愛していたかも知れない時期も、

君に惚れていたかも知れない事も、

君の好きだったかも知れない部分も

全部全部わからない。

僕は君に手を伸ばした。

白く細く骨董品のような君の腕。

ぴっと爪を立てると、

君は、顔を歪め、僕を睨んだ。

真っ白な腕に、真っ赤な血の粒。

ぷくんと流れない血の塊。

はみ出た血は僕が舐めた。

鉄の味がして、君の味なんか一つもしなかった。

飲み込んだ血は、少しだけ僕になった。

>痛いじゃないの。

君は怒った。

君は怒って、僕をひっぱたいた。
ぱしょんと鈍い音がした。

頬は、君の血のように赤く染まる。
じりじりと熱く痛み、

じんじんと赤みを帯びるのがわかる。
赤くなって、赤くなって、

そのまま焼けてしまいそう。

>あんたは、彼氏なんでしょう？

もう一度君は僕を叩いた。

次はきちんと、ぱしんと。

僕は君の彼氏なのか。

君は彼女で、僕が彼氏。

君の彼氏は僕で、僕の彼女は君。

ふと、顔を上げると君の背中はまだ遠かった。
ずっとずっと遠くで

僕がひたすらに思いを寄せていた時位。

ただ、後ろから追っていた時位。

「壊したい。」

「この関係。」

ぽつりと呟いた言葉が、

脳内を駆け巡る。

何度も何度も。

リピートリピート。

こわしたい。コワシタイ。壊したい。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n4436m/>

壊したい...

2010年10月9日23時38分発行